

TRICOLOR

小学生保護者学年対抗 フットサル大会無事終了!

クラブ初の試みとして2月11日(水/祝)に行われた「小学生保護者学年対抗フットサル大会」。参加された皆さん、いかがでしたでしょうか?楽しんでいただけたでしょうか?何せ初めての企画だったので、クラブとしてもどんなものかという不安がありました。今後のためにも皆さんの忌憚のないご意見をクラブスタッフまで聞かせていただけると幸いです。

さて、当日はというと、多くの方にご参加いただいたおかげで盛況の中、大きな事故・ケガ等なく無事に終了することができました。どの試合も盛り上がりを見せていましたが、その中でも、決着がつかずに延長・PK戦までもつれ込んだ2年生 vs 5年生の5位決定戦はかなり盛り上がっていたと思います。

また、参加されたほとんどの方が、普段子どもを通じてしか触れることのなかった「サッカー」を、ご自身が実際にプレーしてみることで子どもたちがどれだけのことをやっているのかを少しは実感していただけたのではないのでしょうか。これを機に子供たちに対してポジティブな言葉がけを増やして欲しいと思います。

最終結果は下記のとおりです。

優勝	小6
準優勝	幼児・小1
3位	小4
4位	小3
5位	小5
6位	小2

かながわフェスティバル 協賛のお願い

かねてよりご案内のとおり、来る3/15(日)、しんよこフットボールパークにおいて恒例の「かながわフェスティバル」を開催いたします。今回も素晴らしい会場で楽しいひと時を過ごしていただくことを最優先に考え、従来同様に行うこととなりますので、協賛して下さる皆様に次のとおり募集させていただきます。不躰なお願いでまことに恐縮ではございますが、何卒ご協力

賜りますようお願い申し上げます。

【募集内容】

①オフィシャルスポンサー(企業):

5,000円×10社以上

→プログラム表紙に企業名(商号)を小さなバナーで掲載します。

②個人協賛:5,000円×10名以上

→プログラム最終ページにお名前だけを順不同で掲載させていただきます。

【協賛金使途】

①会場使用料:112,000円

②記念品・賞品:約130,000円

に充当します。不足分は参加費で賄う予定です。

※昨年雨天により中止となったため、別途120,000円の協賛金があります。

【申し込み】

メール又はお電話・FAXにて、内田まで次のことをご連絡ください。

①金額

②企業の場合はバナー表示名

※個人の方でお名前の掲載を希望されない場合はその旨をお伝え下さい。

【協賛金納入先】

横浜銀行 妙蓮寺支店 普通 1008809

かながわクラブ

【締め切り】

3月10日(火)

【連絡先】

かながわクラブ 内田佳彦

uchida@kanagawaclub.com

090-3499-3098

FAX:045-381-8884

大会・公式戦結果

Top

【県社会人選手権】

▼2回戦

vsFC厚木

1-2●

Junior Youth

【2008/2009 県 U-15 リーグ】

vs 松本中

0-2●

vs 高田中

2-1○

vs 横浜中

2-0○

小6

【区少年選手権】

▼準決勝

vs 横浜かもめ SC	2-1○	ボールをキープする能力が上があれば、攻撃も楽に展開できるようになるし、パスを出すボールのスピードを早くすれば、相手にインターセプトされることも減るでしょう。とにかく、個人個人がそういう意識を持って練習に望むことが大切だと思います。
小5		
【横浜少年サッカー大会】		
▼3回戦		
vs 白根 SC	0-3●	
小2		
【FCアルファジュニアカップ】		
▼グループリーグ		
vs FC 今宿茅ヶ崎(茅ヶ崎)	0-5●	
vs 山王 JFC(伊勢原)	1-1△	
vs 大原 FC(平塚)	0-0△	
グループ3位で湘南ボーイ杯へ		
▼湘南ボーイ杯		
vs 湘南シーホース FC(平塚)	2-0○	
vs ぐずは台キッカーズ(秦野)	0-2●	
vs 初声ジュニア FC(三浦)	2-0○	
湘南ボーイ杯第3位		

Papas

☆0-40

【市シニアマスターズ】

vs 神奈川 40 雀 3-0○

今、グラウンドでは・・・

Top

【新シーズン始動】

1月11日(日)に横浜市民大会を優勝したことはまだ記憶に新しいところですが、すでに今シーズンの戦いは始まっています。

2月1日(日)に県社会人選手権を行い1-2でFC厚木(KSL-2)に敗れてしまいました。全体的にバランスが悪く、こちらがやりたいことを相手にやらせてしまい、ボールを支配されての完敗です。県2部のチームに負けたことは反省すべきことです。

新チームは始動していますが、昨年に比べチームを去っていったメンバーも多く、チームの立て直しのためには、個々の能力の向上、チームとしての組織的な試合運び、そしてなんとと言っても得点不足解消です。個々の能力と言っても、ボール扱いがうまくなるだけではなく、状況判断を早くするとか、相手が嫌がるポジショニングとか、頭を使う部分もかなりあると思います。もちろん、フィジカル的にも強くなって

ボールをキープする能力が上があれば、攻撃も楽に展開できるようになるし、パスを出すボールのスピードを早くすれば、相手にインターセプトされることも減るでしょう。とにかく、個人個人がそういう意識を持って練習に望むことが大切だと思います。

4月には県リーグが開幕します、それまでにチームとして機能するように練習するのみです。(中本 洋一)

【選手紹介⑧】

かながわクラブトップチーム選手紹介第8回目は背番号19 太田貴文選手です。

太田選手の持ち味はなんと言ってもDFを振り切るドリブルとサイドからのクロスボールです。得点能力も高いためにFWをまかされたり、チャンスメーカーとしてサイドからの攻撃を仕掛けるサイドMFとして出場する時もあり、攻撃力を買われてかながわクラブトップチームに欠かせない存在になっています。

それに加え本人のキャラクター的には周りを和ませるような明るさもあり、また時には、試合中にも大きな声でまわりに指示を出しチームとしてのバランスを修正する能力も兼ね備えています。

今シーズンは攻撃の核として活躍してくれると思います。今後の太田選手にご期待ください。(中本 洋一)

☆太田選手からのコメント



今年は就職が決まらずもう一年就職浪人します。しかしサッカーは昨年以上にがんばろうと思っています。今年は特

にサイドからの正確なクロスボールをあげて見せます！そして県リーグでの個人的な目標は4得点以上、低いとお思いでしょうが必ず得点してみせます。ぜひ4月からの県リーグに足を運んでいただき、私のプレーを見ていただきたいと思います。今シーズンも応援よろしくお願いたします。

Youth

【ミニゲームで学ぶこと】

先月ご案内のとおり、ユースはテスト時期に突入しており、対外試合が組めないためにひたすらミニゲームを中心にトレー

ニングを行なっています。

4月から始まるクラブユースの予選は90分ゲームであることから、まずはそれを戦いきれるだけの体力を付けることを主眼にしていますが、ゲーム形式でトレーニングすることにより、多くの戦術的課題の克服もサブテーマに設定しています。一度に多くのことを求めても頭がショートしてしまいますので、攻撃時と守備時に分け・少しずつテーマを与えながら進めています。

■守備の重要性

*守備の目的

- *どうやってボールを奪うのか
- *ボールを失った直後のプレー
- *どこまで戻り、何をすべきなのか

■攻撃の目的

*サポートの重要性・目的

- *良いボールの持ち方
- *アイデアがなかったらボールを動かす

*攻撃の目的

*動き出しのタイミング

*ランニングの質の向上

などということを少しずつ伝えて来ていますが、根底にあるのは、それらを実行するためには走らなければいけないということです。もちろんその走りを支える精神力はもっとも重要です。まだまだ受身に練習に参加している選手が多いですが、チームを引っ張っていかうとして頑張っている選手がいるのもたしかです。「やって楽しい」「見て楽しい」サッカーを皆さんにお披露目できるのに、そう遠くはないような気がします。(内田 佳彦)

Junior Youth

学年末テストが終わり、また全員そろってのトレーニングができるといったタイミングで、受験が終了した3年生も復帰してきました。

にもかかわらず、2回連続で雨天によりグラウンドが使えず・・・いきなりランニング中心のトレーニングが続きました。そこで感じたのは、3年生の体力低下。個々のベストタイムと比べてみたら、一目瞭然でした。受験によるブランクで仕方がないとはいえ、これからまたユース年代でサッカーを再開することを考えると不安を感じます。本来であれば、持久性の発達が期待できる時期なのですが・・・。また、単純に「走れな

い」というだけならまだしも、体力レベルが低下した状態でトレーニングを行うことにより、ケガや障害を起こす可能性が高まります。受験を終え、ようやく好きなサッカーができるようになったのに今度はケガでプレーできなくなったら、あまりにも悲しすぎます。そんなことにならないためにも、3年生は積極的に活動に参加して4月からの新シーズンへ向けて良い準備をして欲しいと思います。(二木 昭)

小 6

【6(5?)年間ありがとうございました。】

6年間ありがとうございました。今から6年前、OBとしてかながわクラブのサッカーと自分の経験したサッカー感を少しでも子供たちに伝えて行きたいと思い、かながわクラブのコーチになりました。記念すべき初めての担当学年として君たちを指導できたことを、そして多くの人が最後まで残り、今ではいい段階で成長してきていることを大変嬉しく思います。

また、いろんな意味で試みをした学年だったといえましょう。お父様の審判協力、公式戦2チーム参加、いろいろな意見交換、時にはクラブの意図が上手く伝わらない時もあったかと思えます。しかし、今では、クラブの方針、環境、風通しの良さを実感頂いているものと感じております。

出来ればこのチーム全員で来年も神奈川県 U-13 リーグに参加して年間通して戦っていききたい気持ちがあります。今はとてもいい段階でステップアップをしています。(子供たちは大分出来てきていると思っていますが、実はまだまだです。)ここからの指導者次第ではサッカー感、戦術理解力等が大きく変わってきて、これは一生つきまとうものとなります。物理的な事情でどうしてもジュニアユース(JY)に参加できない方もいるので、全員は困難ですが、JYにあがるメンバーで1年生から実践の中で成長して行きましょう!! JYにはそういうチャンスがあります!!

残念ながらJYでプレーできるチャンスがない人も、どこに行っても自分で考えること、声を出してコミュニケーションをとることを忘れずにプレーして下さい。

最後に保護者の皆様のご支援とご協力に感謝いたします。この1年サッカーに対し真剣に取り組む頑張っていた人たち、ぎりぎりまで受験と両立していた人たち、サッカーをやりたいのに我慢して勉強をしていた人たちと、みんなそれぞれいい経験となった1年だったと思います。また、2月以降の活動では競争意識と仲間意識が共存しとてもいい雰囲気です。サッカーが出来ているのも、皆様のご協力があることです。できれば、中学になってもそのご協力は頂きたいものです。。

暇な時には港北小グラウンドにも遊びに来てください。いつでも待っています。

今後もみんなが成長してくれることと期待しております。(益子 伸孝)

小 5

【市長杯3回戦】

2月8日(日)、横浜少年サッカー大会(市長杯)3回戦が行われました。

対戦相手の白根は前方へのパスが多いことから、前からのディフェンスにより前方へ蹴らせないこと、そのためにいつもの倍、走ることを選手たちに要求し、それが見事に的中。相手選手も戸惑っているようでした。前半を0-0で終えそうなムードが漂った終了1分前にコーナーキックから失点しまい、0-1で前半を終了。1点を奪ったことにより勢いを取り戻した相手を抑えきれず、その後2失点してしまい、0-3で試合終了となりました。

敗因としていくつかあげるとすれば、「厳しい試合」の経験と「こぼれ球」の反応です。もちろん、「得点を奪えなかった」ことが一番の敗因ですが・・・

かながわクラブの選手のディフェンスにかなり苦戦していた相手選手ですが、それを耐えるメンタルや、セットプレーのチャンスを逃さず得点し、試合の流れを自分たちに引き戻せる場所は、「厳しい試合」の経験が非常にあると感じられました。また、「相手のパスしたボール」には反応し奪いにいけるのですが、「パスではないボール」、例えば、コーナーキックで誰も触らず流れたボール、誰かに当たってこぼれたボール等、「こぼれ球」を奪いに行く意識が低かったと思います。

今後は「レベルの高いチーム」、「戦うチーム」等と練習試合を組むようにし、「厳しい試合」の経験や、「ボールへの執着心」、そして相手ゴール付近で、自分の得意な打ちから突破し、ゴールを奪う技術を高めていきます。

最後になりましたが、お忙しい中、応援に駆けつけて下さったサポーターの皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。(高田 成典)

小 4

【100%を出すことの難しさ】

「練習では上手くできるのに・・・」とか「本番には弱くて・・・」もちろん私も身に覚えがあります。きっと誰でも一度はこのような経験をしているはず。サッカーにおける本番とは、言うまでもなく対外試合のことを指します。初めての相手、ピッチ、そして審判服を身にまとったレフェリー、明らかにふだんの練習のときは違います。そのような状況で持っている力を100%発揮するにはどうすればよいか。これはスポーツに限らず、ある行為が結果という形であらわれる場面では、永遠のテーマとも言えるのではないのでしょうか。

私は、解決策は一つしかないと考えています。それは試合を特別視しないこと、言い換えると試合を練習のように、そして練習を試合の時と同じ感覚でこなしていくこと、これがパフォーマンスの波をつくることなくいつでも同じように力を発揮することにつながっていくのだと思います。もちろん、相手がいるスポーツなので、内容や結果は相対的な力関係によって変わってはきますが、自分が100%を出しきるとい部分に限ってみると、相手の存在を意識する必要はありません。やはり、日頃から研ぎ澄まされた精神状態でトレーニングに臨むことが大切だと思います。トレーニングですべてを出しきることが習慣となってくれば、試合のときも臆することなくいつもと同じように力が発揮できるはず。です。

【選手たちへ】

もうすぐ5年生になりますね。知っている人またはサッカーファミリーの仲間いつでもどこでも自然に挨拶ができますか、ミーティングのときにきちんと話を聞いて

いますか、他の人のプレーを観てよいプレーを心に刻んでいますか、自分のことは自分でやっていますか、そして日々のトレーニングで 100%を出そうとしていますか。どれか一つでも足りないと思うものがあつたら、改善しましょう、変える努力をしましょう。人として成長することができれば、またサッカー人としても大きくステップアップできるはずです。頑張りましょう。

(鈴木 章弘)

小 3

【顔を上げてプレーする】

年間を通して、「顔を上げてプレーをしよう」と子供たちにアドバイスしてきました。最近では、練習でミニゲームをメニューに加えその後にゲームを行いボールと反対サイド・周りの味方・相手選手の位置まで見るよう言っています。

顔を上げてプレーできる選手と顔を上げてプレーできない選手では試合中でのプレーや判断能力や選手の将来性に多く関わってきます。

サッカー選手として一番伸びるこの小学生の時期に、顔を上げてプレーすることができれば上のカテゴリーに上がったときにも良いプレーをすることができます。

春の大会までに、練習・練習試合では失敗を恐れずに顔を上げてプレーしてもらいたいと思います。

【自主練】

前号のトリコロールで、空いた時間にボールを蹴る習慣をつけてくださいと書きました。何人かの子供たちは、自分の学年の練習前や終わった後に持ってきたお弁当を食べて鉄棒や砂場で自主練をしていました。

子供たちが自ら進んで練習してくれて担当コーチとしては、とてもうれしく思います。(でも、疲れている時・体調が悪い時・怪我をしている時はしっかり体を休めてコンディションを整えてください。コンディションをしっかり整えるのも良い選手の条件ですよ!!)(丸山 祐人)

小 2

【招待試合】

2/21(土)、22(日)に「FC アルファジュニ

アカップ」に参加しました。これは平塚にある FC アルファさんから二木コーチ経由でお誘いいただいたもので、この学年では初めての「カップ戦」です。11 人制の大会でもあり人数的に少し心配しましたが、結果は下位トーナメントながら見事 8 チーム中 3 位になりました。とにかく子供たちの頑張りで大拍手、頑張つて頑張つて走り続けました。やはり目的があると違いますね、皆どうしても賞状とトロフィーが欲しかったようです(笑)

【姿勢】

この大会に参加する前にいろいろお誘いもあり練習試合を随分行いました。結果は「失点多く得点少し」だったのですが、その中でも進歩があり取組む姿勢に変化が見て取れました。以前にも「取組む姿勢」と「技術を身につける」ことの大事さをお伝えしましたが、今までよりボールを扱えるようになってきていることと練習試合での経験から、場面々々で「どうすれば良いか」がわかってきたこと、これが少しずつですが自信を持ったプレーに繋がってきています。今回はそれに「勝ちたい」気持ちも重なりこのような結果になったものと思っております。

【争奪戦】

さて、このトロフィーの行方については子供たちとも相談し小 2 終了時までを決めたいと思います。こちらもアツくなりそうです。(小野 津春)

幼児・小 1

【試合をする意味について】

久しぶりの試合が 2 月 1 日(日)に野川 FC とありました。勝負ですから、勝つこともあるし、負けることもあります。以前にも書きましたが、試合をする意味についておさらいしておきましょう。それは普段港北小学校のグラウンドで練習していることが、試合という場面で、ユニフォームの違う相手に対したときに、どれくらい発揮できるのかを確認することにあります。できることとできないこととははっきりさせることで、次回からの練習に向かう姿勢は変わってくるはずなんです。できなかったことはできるようにしなければなりません。できたことは更に正確

性とスピードを増すように努力しなければなりません。

ですから試合に臨んでは自分たちの最大限の力を発揮して、精一杯のパフォーマンスをすることが要求されます。勿論フェアプレーが大切なのは言うまでもありません。いい加減な態度でしかも何となく試合に出ることは意味が無いだけでなく、せっかく試合に呼んでくれた相手に対して非常に失礼なことでもあります。

【筋肉の強さよりボール感覚】

小学生年代の試合では、勝つことにはばかりに拘ると大切なことを見失ってしまいます。スキヤモンの発育発達曲線を持ち出すまでもなく、人間の神経系の発達は、一般系(骨格や筋肉)の発達に先んじ、8 歳から 10 歳で成人の 90%が完成されます。ということはこの時期に強さを鍛えること(キック力や走ること)はあまり意味がなく、逆に、神経系を刺激する運動をすることが大切になるわけです。神経系にはバランス、反応時間など体の動きの巧みさとボール感覚の養成があげられます。特に球体のボールの感覚をつかむには、ボールを使った遊びをたくさんすることが効果的です。

そこで、かながわクラブでは、子どもたちが小学校低学年のときには、たくさんボールに触れて、サッカーの楽しさを知って欲しいと思っています。

【ミスから学べることは多い!】

試合では、ゴールキーパーをやりたい子に順番でやってもらっています。キーパーを特定の子どもに固定して専門に鍛えることは、子どもたちの秘められた可能性を考えると、この時期では早すぎると考えます。それよりも様々なポジション(未だポジションと呼べるものでもないのですが…)を経験して、最終的にキーパーがやりたいという子が出てくるのが理想です。

ですから、キーパーのミスで失点することは想定内のことですので、親御さんにはお子さんがキーパーをすることに対してあまり神経質にならないでいただきたいと思えます。試合には最初に述べたような意図で臨んでいますし、負けた責任をキーパーに押し付ける気持ちも毛頭ありません。

試合に負けた責任は指導者も含めた全員が負うべきものです。決して特定の親御さんや子どもさんが責任を感じるものではありません。

しかし、子どもたち一人一人にはミス(できなかつたこと)をきちんと認識してもらわないと困ります。次にどうすればミスをしないで済むのかを考えるきっかけとし、次回からの練習には、そのことを解決するために取り組む必要があるからです。恐らくお父様方やお母様方も自らを振り返ってみればおわかりになると思うのですが、失敗から学んだことが多いのではないのでしょうか。親御さん(大人)は、自らの経験からしても失敗が成長の糧になることが十分わかっているはずですが、にもかかわらず、自分のお子さんにはミスをさせたくないというの、親心として理解できます。しかし、命にかかわることであれば多少のミスは経験させることが子どもたちの成長のためには必要なのではないのでしょうか。

キーパーをやると積極的に取り組んだことがまず評価に値します。そのことを誉めてあげてください。そしてミスをしたことについては一緒になって次にどうすればミスをしないで済むかを考えてみましょう。

(佐藤 敏明)

Papas

【シニアリーググラウンド提供問題】

apas が加盟している神奈川県シニアサッカーリーグでは、「年間2日以上試合会場提供」をリーグ加盟条件としており、Papas もその条件を承諾して加盟しております。しかし、この義務をなかなか果たせないチームが多いのが現状です。結果としてリーグ戦が円滑に消化できず、予定期間を1か月近く伸びてしまっています。私どもPapasも2チームで4日以上提供義務があるにもかかわらず、毎年1日ないし2日程度しか提供できていません。グラウンド状況の厳しい横浜、川崎のチームは同様の傾向にあるようですが、中にはこの義務を果たすべく1日8万円のグラウンドを借りて提供しているチームもあるとのことでもあります。

そこで昨年来、この問題を解決すべくグラウンド提供義務を果たせないチームに

対して何らかの金銭的負担を課して、負担の公平を図ろうとすることが検討されてきました。その結果、現在以下のような提案がなされ、3月14日(土)のチーム代表者会議で決定がされようとしております。

年間2日のグラウンド提供義務が果たせなかつたチームは、3試合分4時間を単位として、2日に不足する分を1単位2万円を課徴金として年度末に徴収しようという制度であります。具体的には、1日しか提供できなかった場合は、不足する1日分が2単位になりますので、4万円を課徴金として納める、もし全く提供できなかった場合は、1チーム8万円を納めるということになります。

おそらくはチーム代表者会議で決定されることになると思います。したがって新年度はこれまで以上に、スタッフとしてもグラウンド確保に努めていくつもりですが、Rec&Comp 参加の皆さんにおかれてもグラウンド確保のためにご協力をお願いします。企業のグラウンドや学校のグラウンドなどでコネクションや情報をお持ちの方は、是非、スタッフまでお知らせ願います。なお、グラウンド提供チームは、試合当日の朝6時半にはグラウンドが使えるかどうかを現地を見て判断し連絡しなければなりませんので、できれば近くのグラウンドがありがたいのですが、そんなわがままを言っている余裕はありません。

そうした努力にもかかわらず、グラウンド提供ができなかつた場合には、年度末に課徴金を払うこととなりますが、その場合には、大変恐縮ですが、課徴金として支払う額を参加メンバーから追徴させていただかざるを得ません。心苦しいのですが、その際にはご理解とご協力をよろしく願います。考えようによっては、1チーム8万円を払えば、グラウンド確保の労苦から解放されることとなりますので、その方がかえって負担が少ないと考えることもできないわけではありません。少なくとも1日8万円のグラウンドを2日借りて提供するよりは、低い負担となることは確かです。

いずれにせよ、こうした議論が進行しており、間もなく決定がなされること、またその結果によっては新たな負担をお願いする可能性があることをどうぞご理解をいた

だきますようお願いいたします。(茅野 英一)

Mistral

少しずつ春が近づいて来る季節になりますね。(ツブヤキ)気分は金曜日があるたび両手の指を全部折り切れない日がくるというのは溜め息が出るばかりです。ミストラルに入部して、もう今年で6年目になります。その間一人、二人仲間が去って行き淋しいなと思いつつも一週間に一回の練習に参加し頭の活性化と童心の気持ちになりボールを追い掛け楽しい時間を過ごしてきたのに(若さの秘訣)はこれだと思ったのに、もー……もー(中島 恵子)

ヨーガ

【きつとヨーガが効いたんだ！】

三寒四温の言葉どおりの気候です。風邪と花粉症のために街中でマスクをした人を多く見かける季節となりました。そんな中で、毎年悩まされる花粉症の症状が出ずにすんでいる私。なぜでしょうか。私の花粉症暦は長く、もうかれこれ30年以上になります。当時は「花粉症」などという立派な名前もついていなくて「謎のはくしょん発作」と勝手に呼んでいました。なにかのきっかけでくしゃみが出始めると止まらなくなってしまうので、家族や友達に笑われたものです。それなのに、今ではくしゃみと鼻詰まりで苦しうにしていると「花粉症なのね。」と普通に同情してもらえます。実にうらやましい。まあ、「私の育てた(?)花粉症がこんなに大きく成長したのね。」とおおらかな気持ちで捕らえることにしましょう。などと思っていたら、花粉症の大御所と思っていた私が治ってしまったようなのです。

とくに変わったことをしたのでもありません。薬も飲んでいません。やっぱりヨーガかな……。そういえば、この冬は風邪もひかずにすんでしまったし……。なんだか丈夫になった模様……。

3月末までにヨーガの論文をひとつ仕上げます。ヨーガの身体への効果を形にするためです。私の花粉症の場合のように、ヨーガをするようになってなんとなく調子が良いという方は多いようです。でも、しっかりとした形で効果の証明をするのは少し大変。頑張ります。(伊藤 玲子)

たわごと
理事長の臆言

【君が代】

2月11日に行われたW杯予選のオーストラリア戦。

国歌斉唱は横浜市立中沢小学校の児童21名でした。

NHK 全国学校音楽コンクール 神奈川県コンクールで3年連続金賞に輝いている実力だけに、本当に素晴らしい歌声でした。

有名なアーティストも確かに場を盛り上げますが、彼らの歌声には感動すら覚えませんでした。

素敵な企画でした。(内田 佳彦)

かながわクラブ・クラブ員専用の掲示板です。クラブからの重要なお知らせが記載されますので、まめにチェックしていただくと早く正確に情報が伝わります。

<http://8610.teacup.com/kanagawaclub/bbs>



☆ハンドブックについて☆
今年度より携帯で見られるように作成いたしました。下記のURLをクリックしてご覧ください。
クラブの理念や指導方針、各種手続き方法、注意事項、スタッフの紹介など重要な情報満載です。是非ご一読下さい。

http://www.kanagawaclub.com/HB/youji_shougakusei.html



